



魚を食べよう Vol.3



～日本一魚をおいしく食べるまち鳥羽～

農水商工課水産係 ☎ 25 1167

夏～秋にかけて旬の魚を紹介します！

この時期のおすすめは「さわら」です！
お刺身はもちろん、塩焼き、煮付け、フライ、ムニエルなどいろいろな食べ方で楽しむことができる魚です。

10月ごろからは、一本釣りであることや脂肪含有率10%以上などの基準を通った「答志島トロさわら」の水揚げがはじまります。



どこで購入できるの？

旬の時期には市内の飲食店やホテル、旅館などでも食べることができますが、今回は切り身などを直接購入できる場所として、鳥羽の魚をたくさん取り扱う直売所「鳥羽マルシェ」を紹介します。

鳥羽マルシェとは

市が建物を整備し、第1次産業の振興と農漁村地域の活性化を図ることを目的に、生産者組織である伊勢農業協同組合と鳥羽磯部漁業協同組合が協同で運営している直売所です。

鳥羽マルシェではその日とれた新鮮な魚を購入することができます。お店に並ぶ魚は毎日違うので、その日のお楽しみです。



ぜひこの機会に鳥羽マルシェを訪れて、鳥羽の魚を味わってみてください！

今回のトバゴトコラムは、鳥羽市内でも最近よく見かける「SDGs : Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」のお話です。そもそもSDGs(エス・ディー・ジーズ)とは、「人類が地球で暮らし続けていくために」国連が定めた17項目の国際目標であり、2030年での達成を目指している取り組みになります。

これらの目標の中には、貧困や健康、教育、まちづくりなどの項目が含まれており、近年の福祉分野のキーワードと言える「地域共生社会」ととても近い概念を持っています。たとえば、先ほどのSDGsの人類を「住民」、地球を「地域」に置き換えてみると「住民が地域で暮らし続けていくための目標」に変わり、これはまさに地域共生社会の概念と一致しています。つまり、鳥羽市内のSDGs

キーワード
#SDGsと地域共生社会

を推進しているひと・企業・団体は、SDGsへの取り組みと同時に、地域とともに育む地域共生社会(福祉)へも既に参画し始めているのです。ただ残念ながら、SDGsへの参画には有意識でも、地域共生社会への参画には無意識な場合が多いように感じます。

ひと・企業・団体として、地域共生社会への参画方法がわかりづらい場合には、SDGsの視点から行動してみると良いのかもしれませんが、その小さな一歩が、あなたの暮らしすまの福祉(地域共生社会)を育む結果としてつながっていくはずです。



とばびと
活躍
プロジェクト

トバゴト

Vol.11



トバゴトQRコード

健康福祉課長寿介護係
(生活支援コーディネーター) 杉浦 徹

☎ 25 1186